

ホクレン ディスタンスチャレンジ2020

新型コロナウイルス対策 実施報告書

■競技者およびチーム関係者に実施したこと

- 参加標準記録とターゲットナンバーによる参加人数の制限
 - ・競技時間の短縮と常時競技場滞在人数および1レース人数をコントロールした。
- エントリー時に団体登録の実施
 - ・チーム代表者と連絡の取れる体制を構築した。
- 参加料の事前支払い
 - ・例年当日現金支払いの大会であったが、振込支払に変更した。
- 競技場内エリアコントロールとADカードの発行
 - ・選手・チーム関係者、役員、メディア、観戦者の4エリア・導線を設定した。
- 体調管理チェックシートの提出
 - ・【提出】大会1週間前（大会前日11:00までにメールで提出）
→「○」のあった選手・チーム関係者は、大会当日に問診・検温を実施した。
→中学生、高校生選手においては学校長の署名のある出場同意書の提出を義務付けた。
 - ・【自己管理】大会終了後2週間
→体調に変化があった場合は、大会で設けた対策本部に連絡することを義務づけた。
- 大会前日のオンライン（Google meet）のテクニカルミーティング
 - ・各大会前日の15:00に実施。
 - ・事前に資料を展開。
 - ・テクニカルミーティング当日の午前中までにグーグルフォームで質問を受け、ミーティング時に回答。
 - ・ミーティング内容は主に会場内のエリア分けと導線、受付、招集方法の説明。
 - ・体調管理チェックシート未提出者のアナウンス。

*参考資料（別添）

- ・テクニカルミーティング資料
- ・各大会会場図

■競技役員に実施したこと

- 体調管理チェックシートの提出
 - ・【提出】大会1週間前（大会当日、受付時に提出）
 - ・【自己管理】大会終了後2週間
- 役員委嘱は65歳未満とすることが望ましいとしたうえで、参加については競技役員の自己判断によって決定した。

■メディアに実施したこと

- 事前申請
 - ・取材要項の作成と取材申請フォームにて申請を取りまとめた。
- 取材制限
 - ・1社1名、基本ペンのみでの申請とした。
 - ⇒代表撮影した素材を提供できない社（地方紙やWEB媒体など）に対しては、スチール撮影を許可した。
 - ⇒ENGは代表撮影のみとした。（競技映像と取材映像）
 - ・取材制限をしたため、開催5日前くらいまでには取材可否の連絡を行った。
 - ⇒ペンのみか、カメラ兼任かの連絡をもらった。
- 大会前に実施したこと
 - ・事前資料送付（前々日）
 - ⇒受付開始時間、駐車場、前日練習取材禁止などをアナウンスした。
 - ・取材希望選手の確認
 - ⇒幹事社（共同通信）へ取りまとめを依頼し、前々日までに希望選手をとりまとめた。
 - テクニカルミーティングで取材対応を説明した後に、所属先へ確認の連絡を行った。
 - ⇒基本的には、レース1組につき最大3名・2社以上から要望があった選手のみ対応した。
 - ⇒当日の朝、取材対応選手一覧をメディアへ共有した。
 - ・オンライン取材のリハーサル
 - ⇒インターネット環境を確認した。
 - ・当日配布資料の作成
 - ⇒前日の設営で確認したこと（撮影エリア・作業スペース・取材エリア・トイレなど）を追記したものを作成した。

●受付

- ・ビニールシートまたはフェイスシールドで飛沫を防止した。
- ・体調管理注意事項を机に貼り付け、確認した。
- ・検温後、当日資料とビブスを渡した。
⇒ビブスの色分けで取材エリアや取材方法を管理
オレンジ→ペン取材（オンラインのみ）
黄色→ペン取材カメラ兼任（オンライン・アウトフィールドでの撮影）
黒→代表撮影スチール・ENG（インフィールド・アウトフィールドでの撮影）
緑→代表撮影ENG（対面取材・アウトフィールド撮影）
※交代等の際に記者間でのビブスの貸し借りをしないよう、予備のビブスを準備した。
※チェックシートの提出がない場合は、受付で確認した。

●体調管理チェックシートの提出

- ・【提出】大会1週間前（大会当日10:00までにメールで提出）
- ・【自己管理】大会終了後2週間
※チェックシートの提出がない記者には昼までに電話で確認した。

●テレビ取材（約5分）

- ・スポーツニュース協会幹事社（NHK）が代表で取材対応を実施した。
⇒選手とのソーシャルディスタンスを保った中で実施した。
⇒濃厚接触を避けるため5分以内で実施した。
※バックボードは行政に準備いただいたものを使用した。
※オンライン取材無しの選手は録音した音声データを格納した。

●オンライン取材（ペン取材・約5分）

- ・ミックスゾーン設置無し（対面）
- ・Google meetを使ったオンライン取材

⇒選手が変わる度に、イヤホン・椅子・テーブルなどの消毒を実施した。
⇒陸連から代表で1つ質問をした後、チャットに所属先と名前を記入いただき、指名して質問を受け付けた。
⇒およそ3問（5分）程度で終了した。
⇒オンライン取材を録画したものを随時オンラインストレージへ格納した。

●メディア控え（作業スペース）

- ・ソーシャルディスタンスを確保したテント数（大きいものを2〜3張程度）、テーブル（長テーブルに2名）、椅子を設置した。
⇒使用しないエリアは、養生テープで使用禁止が分かるように設定した。
- ・記者の方々が滞在するエリアのため、選手やチーム関係者との導線と重ならないよう調整した。
- ・大会終了後は30分以内に退出していただくように促した。

●スタートリスト・リザルト

- ・接触を避けるため紙での配布はせず、オンラインストレージで共有した。
- ・リザルト共有のための端末とネット回線を確保した。（競技場により既存回線がない）

●撮影エリア

- ・フィニッシュ先撮影エリア
⇒撮影エリアをコーンで区切り、カメラマン同士が密にならないよう注意事項の張り紙と撮影位置を設定した。
⇒代表社に優先的に位置取りしてもらい、その後記者カメラ兼任の方を誘導した。
- ・3000mSC撮影エリア
⇒水濠付近にエリアを設置した。（代表社のみ撮影可とした。）
- ・インフィールド
⇒代表社のみ撮影可とした。

●準備物

- ・配布資料（事前・当日）
- ・ソーシャルディスタンスの注意喚起文書
- ・体調管理注意事項リスト（受付に貼り付けた。）
- ・オンライン取材の際に、口元にマイクを近づけて話してもらうための注意喚起文書
- ・オンライン取材設定（Google）

*参考資料（別添）

- ・ホクレンディスタンスチャレンジ2020メディア取材対応に関する報告書

■観客に実施したこと

●受付時

- ・待機列はソーシャルディスタンスを確保できるよう、線を引くか、コーンで待機間隔を指定した。



- ・検温・体調チェック
- ・観戦エリアカードの配布



- ・氏名、連絡先、観戦エリア（移動した場合は移動した場所と滞在時間）を裏面に記載。退場時に観戦エリアカードを回収し、開催自治体で保管。

● 応援時

- ・決められたエリアでの応援



- ・再入場する場合は、出入口で再入場する旨を係員に伝え、最初入場した指定エリアに戻る。
 - ・声を出しての応援の自粛。（拍手で応援）
 - ・食事の禁止。
- ※アナウンスで繰り返し注意喚起を続けた。

● 観客席

- ・ゾーン分けをし、観客は指定のゾーンで観戦を義務付けた。
- ・芝生に2m四方の区画を作り、ソーシャルディスタンスを確保した。

* 参考資料

- ・観客の受入れについて

網走大会：https://www.jaaf.or.jp/files/upload/202007/14_113532.pdf

千歳大会：https://www.jaaf.or.jp/files/upload/202007/16_211207.pdf

■ライブ配信で実施したこと

●配信の段階的アップデート

- ・4戦行う中で常に内容をアップデートできるような配信設定を行った。

士別：実況解説、看板掲載協賛団体のテロップ表示と看板映し出し、各組1着選手インタビュー（基本配信内容）

深川：基本配信内容＋実況解説者の映し出し

網走：基本配信内容＋実況解説にゲスト出演＋実況解説者の映し出し＋市長挨拶＋陸連動画挿入

千歳：基本配信内容＋実況解説にゲスト出演＋実況解説者のワイプ＋陸連動画挿入＋協賛社CM挿入



■大会運営で実施したこと

【大会前】

- 各大会開催自治体、陸協、陸連による定期的なオンラインミーティングを実施した。
 - ・ミーティング内容
 - ① 大会実施にむけた各自治体意向の確認
 - コロナウイルス感染状況の拡大状況とともに、市の意向を確認しながら実施に向け準備を進めた。
 - ② 感染症対策状況の確認
 - 必要備品があるかの確認を行った。
 - ③ 会場設営案の精査
 - 要点：選手・チーム関係者、地元役員、メディア、観客が交わらないことと、競技場内に滞留が生じないようにした。
 - ④ 役員配置、人数の確認
 - 常時競技場滞在者人数をコントロールした。
- 「新型コロナウイルス感染対策本部」の設置
 - ・各シリーズ大会ごとに設置し、シリーズ全体責任者、開催自治体責任者、主催者、日本陸連事務局の構成で設定した。
 - ・大会開催および有観客試合に関する判断、クラスター発生の防止、体調チェックシートによる出場可否の判断、情報の集約、開催地や出場者を通じた感染症対策の周知徹底を目的とした。
- 紙媒体の削減
 - ・プログラム、スタートリスト、リザルトはすべてWEBで公開し、出場選手、チームスタッフの体調チェックシートや同意書の提出もメールで行った。

【大会当日】

- 受付
 - ・受付対応者はフェイスシールド装着またはパーテーションを設置した。
 - ・選手・チーム代表者、役員、メディアはそれぞれ受付場所を分けて設置した。
 - ・選手受付は、チーム代表者1名が代表して受付を行った。
受付時には体調チェック表提出以降の体調の変化、発熱などがないかを確認した。
- レース中の給水
 - ・ビニール手袋を装着したスタッフがテーブルに並べて、選手は各自でとってもらった。

■競技運営で実施したこと

●招集からスタートまで

- ・受付時にアスリートビブスを受取り、スタート5分前にスタート地点に集合とした。
- ・スタート地点近くに設置した選手控えテントで、自分の腰ナンバーカードを自分で取ってもらい、これを最終招集確認作業とした。
- ・スタート1分前に整列し、整列次第スタートした。



●フィニッシュ

- ・フィニッシュ地点に滞留しないように、速やかに退場を促し、待機テントは設けない。

●給水

- ・蓋をしたペットボトルを使用した。
- ・紙コップを使用する場合は、給水担当者は注ぐ前に手指消毒を徹底的に行い、コップを触る時は口につける箇所は触れないように扱った。
- ・ゴミが発生する際は、給水担当者がトングなどで拾い、ビニール袋に入れた。

●医療関係

- ・医療従事者の常駐と、医務室と隔離テントの両方を設置した。
- ・事前に保健所との連携を行った。

●換気・審判交代の時間の組み込み

- ・種目間に2回ほど15分～20分間の換気と審判交代の時間を組み込んだ。

●コロナウイルス対策として準備したもの

- ・ソーシャルディスタンス、3密の注意喚起掲示物と、アナウンサー読原稿
- ・体調管理注意事項リスト（掲示用）
- ・仮設手洗い場所、トイレ（手洗い場所、トイレが少ない場合必要）
- ・その他基本的な感染防止物（非接触型体温計、マスク、消毒液、フェイスシールド、防護服、ゴム手袋）



○各自治体での感染症対策の取り組み（特記事項）

【土別市】

- ・土別大会運営要領を作成し、市職員、競技役員へ事前に配付のうえ説明し、感染防止対策や配慮事項の周知を図ることで円滑な運営につながった。
- ・ゾーン分けは、本市陸上競技場のレイアウト特性とエリア出入口の担当員配置により機能していた。
- ・隣接する野球場もアップゾーンとして加えた。
- ・石鹸、手指消毒の箇所をトイレ、更衣室、エリア出入口に設置するとともに、消毒班3名を配置し、蛇口やドアノブ、スタート待機のイスなどの消毒作業を随時行った。
- ・救護班は、マスク、フェイスガード、ビニール手袋、カップを着用し待機した。

【深川市】

- ・運動公園を完全に封鎖することが困難であることから、ウォーミングアップ、クーリングダウンは公園内全てを使用してもらい、待機スペースとして市民球場及び総合体育館のメイン、サブアリーナを開放した。（しかしながら雨天のため市民球場はあまり使用する選手はいなかった）

【網走市】

- ・選手のフィニッシュ後の手洗い場として、臨時的に4箇所設置した。
- ・観客に対して、競技中は市職員によるソーシャルディスタンスを保つ啓発を行った。

【千歳市】

- ・観客に対して、開場前に2m間隔でラインを設定し、列を整理した。
- ・締め切り後、観客出入口付近での立ち見客があったため、ソーシャルディスタンスを呼び掛けた。

○役割分担

■運営関連

- ・エントリースystem構築（陸協、日本陸連）
- ・会場レイアウト、設営（陸協、自治体、日本陸連）
- ・当日受付（自治体）
- ・体調管理チェックシート収集（陸協、日本陸連）
- ・テクニカルミーティング（日本陸連）
- ・医療機関連携（自治体）
- ・感染症対策備品準備（自治体、日本陸連）

■メディア関連（日本陸連）

■観客関連（自治体、日本陸連）

以上